



2019年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年3月8日

上場会社名 クミアイ化学工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4996 URL http://www.kumiai-chem.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小池好智
 問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部長 (氏名) 中野健史 (TEL) 03-3822-5036
 四半期報告書提出予定日 2019年3月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2019年10月期第1四半期の連結業績 (2018年11月1日～2019年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年10月期第1四半期	24,269	27.3	2,127	143.8	2,480	80.9	1,839	63.5
2018年10月期第1四半期	19,058	52.9	872	421.3	1,371	2.9	1,125	10.6
(注) 包括利益 2019年10月期第1四半期	763百万円 (85.2%)		2018年10月期第1四半期		412百万円 (△76.1%)			

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2019年10月期第1四半期	円 銭 14.68	円 銭 —
2018年10月期第1四半期	8.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2019年10月期第1四半期	百万円 137,097	百万円 97,573	% 65.6
2018年10月期	132,680	97,739	67.9
(参考) 自己資本 2019年10月期第1四半期	89,895百万円		2018年10月期 90,022百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2018年10月期	円 銭 —	円 銭 3.00	円 銭 —	円 銭 7.00	円 銭 10.00
2019年10月期	—	—	—	—	—
2019年10月期(予想)	—	3.00	—	6.00	9.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 2018年10月期の期末配当金には、創立70周年記念配当2円00銭を含めております。

3. 2019年10月期の連結業績予想 (2018年11月1日～2019年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	59,700	10.2	5,000	4.3	5,600	△0.1	3,800	△14.7	30.34
通期	107,000	10.5	6,100	9.3	8,100	0.3	5,600	19.0	44.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年10月期 1 Q	133,184,612株	2018年10月期	133,184,612株
---------------	--------------	-----------	--------------

② 期末自己株式数

2019年10月期 1 Q	7,922,103株	2018年10月期	7,921,665株
---------------	------------	-----------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2019年10月期 1 Q	125,262,700株	2018年10月期 1 Q	126,385,599株
---------------	--------------	---------------	--------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資など内需が底堅く推移することで緩やかな増加基調はみられるものの、米中間の貿易摩擦問題や中国をはじめとするアジア新興国経済の鈍化が与える輸出への悪影響が懸念される等、先行き不透明な状況が続いております。

日本の農業を取り巻く状況は、農業生産額の減少、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の拡大など依然として多くの問題・課題を抱えており、厳しい状況となっております。

一方、世界の農薬市場は、アジア、南米等の新興国需要増加を背景に2009年から拡大していた増加基調が、近年の経済失速に伴う需要の鈍化で横ばいに推移しております。しかしながら、潜在的な食料需要は今後人口増加と共に伸びが期待され中長期的には市場が拡大するとみられております。

このような情勢の下、当社は2017年の旧イハラケミカル工業株式会社との経営統合により、新生「クミアイ化学工業株式会社」として、新中期経営計画「Create the Future」を策定し、前期は初年度計画を達成する形で終了しました。引き続き、統合によるシナジー効果を確実に発現するべく、(1)事業基盤の強化、(2)事業リスクの最小化、(3)成長戦略の推進、(4)コーポレートガバナンスの強化、(5)働き方改革の実践の5つを重要方針として、各部門における課題の達成に取り組んでまいります。

売上高は、主力剤アクシーブの販売拡大により、242億6千9百万円、前年同期比52億1千1百万円(27.3%)の増加となりました。営業利益は、売上高が増加したことにより21億2千7百万円、前年同期比12億5千5百万円(143.8%)の増加となりました。経常利益は、24億8千万円、前年同期比11億9百万円(80.9%)の増加となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、18億3千9百万円、前年同期比7億1千4百万円(63.5%)の増加となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間における海外向け売上高の割合は48.6%となりました。

セグメントの概況につきましては以下の通りです。

セグメント	2018年10月期 第1四半期			2019年10月期 第1四半期			前年同期比	
	売上高	売上高 構成比	営業利益	売上高	売上高 構成比	営業利益	売上高 (増減率 %)	営業利益 (増減率 %)
農薬及び 農業関連事業	百万円 13,268	% 69.6	百万円 836	百万円 17,450	% 71.9	百万円 1,900	百万円 4,183 (31.5)	百万円 1,064 (127.2)
化成品事業	4,119	21.6	319	5,136	21.2	411	1,016 (24.7)	92 (28.7)
その他	1,671	8.8	2	1,683	6.9	119	12 (0.7)	117 (4,749.4)
計	19,058	100.0	872	24,269	100.0	2,127	5,211 (27.3)	1,255 (143.8)

(注) 1. 前第1四半期連結累計期間のセグメントの営業利益には、調整額として主に各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない一般管理費)286百万円が含まれております。

2. 当第1四半期連結累計期間のセグメントの営業利益には、調整額として主に各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない一般管理費)303百万円が含まれております。

① 農薬及び農業関連事業

国内販売部門の農耕地向け製品は、水稲用除草剤「エフィーダ剤」の本格販売開始に加え、「フェノキサスルホン」と「ピリミスルファン」との混合剤の出荷が順調に推移したことにより、「トップガン剤」等の既存製品の落ち込みをカバーし、水稲用除草剤全体では前年同期を上回りました。また、水稲用箱処理剤は、「イソチアニル剤」を含む混合剤の販売並びに、「サイアジピル剤」を含む混合剤の出荷が伸張したことから、前年同期を上回りました。これらの結果、水稲剤全体では前年同期を上回る結果となりました。

園芸向け製品は、殺虫剤、殺菌剤、除草剤等が好調に推移した結果、前年同期を上回りました。

特販部門は、自社開発原体の販売において園芸用殺菌剤が好調に推移したものの、受託加工が前年同期を下回りました。ゴルフ場などの農耕地以外の分野は堅調に推移し、全体としては前年同期を上回りました。

海外販売部門は、基幹製品である畑作用除草剤「アクシーブ剤」において、北米で需要が高まり、出荷が大幅に伸張し、さらに豪州向けは、前年の現地販売が好調で、2019年シーズン用の先取りが好調に推移しました。「ノミニー」はブラジルにおいてサトウキビの登熟促進剤としての使用が伸び、出荷が好調に推移しました。これらの結果、海外事業全体としては前年同期を大きく上回る結果となりました。

以上の結果、農薬及び農業関連事業の売上高は174億5千万円、前年同期比41億8千3百万円(31.5%)の増加となりました。営業利益は19億円、前年同期比10億6千4百万円(127.2%)の増加となりました。

② 化成品事業

化成品事業は、塩素化事業において、クロロトルエン系化学品の販売が前年における販売先での在庫解消に伴い増加したことに加え、連結子会社のイハラニッケイ化学工業株式会社との共同出資によりタイ王国に設立したIharanikkei Chemical Thailandを核に推し進める、アラミド繊維や高機能樹脂などの原料向けクロロキシレン系化学品が好調に推移しました。また、その他の主力事業となる精密化学品事業については、電子材料や高耐熱樹脂などに使用されるビスマレイミド類が市場の需要に合わせ販売が好調に推移し、防水剤等に用いられるウレタン硬化剤事業では、国内向け、輸出共に順調に推移しました。また、受託事業では、新規受託品の獲得並びに受託販売量の増加により好調な状況となりました。環境衛生や製紙向け産業薬品事業についても前年同期を上回りました。農水産物や電化製品の梱包材、家電製品パーツ、建築用断熱材などの幅広いニーズに応える発泡スチロール事業は、需要増に加え、販売価格の改訂により売上高の増加につながりました。

以上の結果、化成品事業の売上高は51億3千6百万円、前年同期比10億1千6百万円(24.7%)の増加となりました。営業利益は4億1千1百万円、前年同期比9千2百万円(28.7%)の増加となりました。

③ その他

その他の主な事業内容は、賃貸事業、発電及び売電事業、建設事業、印刷事業、物流事業、情報サービス事業等であります。

賃貸事業では、引き続き保有資産の有効活用に努め、売上は前年同期並みとなりました。発電及び売電事業では、台風被害の解消により、売上が前年同期を上回りました。建設事業及び印刷事業では、売上は前年同期並みとなりました。一方、物流事業では、積極的な営業活動の継続による新規顧客獲得などにより、売上は前年同期を上回りました。

以上の結果、その他全体の売上高は16億8千3百万円、前年同期比1千2百万円(0.7%)の増加となりました。営業利益は1億1千9百万円、前年同期比1億1千7百万円(4,749.4%)の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は1,370億9千7百万円で、前連結会計年度末に比べ44億1千6百万円の増加となりました。これは主に受取手形及び売掛金並びに商品及び製品の増加が、現金及び預金並びに投資有価証券の減少を上回ったことなどによるものです。

負債は395億2千4百万円で、前連結会計年度末に比べ45億8千2百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金並びに短期借入金の増加が、未払金の減少を上回ったことなどによるものです。

純資産は975億7千3百万円、自己資本比率は65.6%、1株当たり純資産は717円65銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年10月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想は、2018年10月期の決算発表時(2018年12月14日)の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,729	15,741
受取手形及び売掛金	21,769	26,041
有価証券	30	50
商品及び製品	18,405	21,782
仕掛品	10,032	9,750
原材料及び貯蔵品	4,494	4,814
その他	1,942	1,592
貸倒引当金	△67	△51
流動資産合計	74,334	79,720
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,720	9,736
機械装置及び運搬具（純額）	5,327	6,889
土地	12,061	12,098
建設仮勘定	1,932	302
その他（純額）	1,397	1,411
有形固定資産合計	30,438	30,436
無形固定資産	603	695
投資その他の資産		
投資有価証券	24,377	23,598
長期貸付金	309	8
繰延税金資産	885	947
退職給付に係る資産	124	129
その他	1,765	1,718
貸倒引当金	△154	△154
投資その他の資産合計	27,306	26,246
固定資産合計	58,346	57,376
資産合計	132,680	137,097

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,052	16,132
短期借入金	2,759	8,878
未払金	4,377	2,641
未払法人税等	788	753
賞与引当金	1,475	606
その他	648	815
流動負債合計	25,099	29,825
固定負債		
長期借入金	970	870
繰延税金負債	3,548	3,448
役員退職慰労引当金	579	587
退職給付に係る負債	4,358	4,361
資産除去債務	39	39
その他	348	394
固定負債合計	9,843	9,698
負債合計	34,942	39,524
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,534	4,534
資本剰余金	35,735	35,735
利益剰余金	54,660	55,622
自己株式	△4,113	△4,113
株主資本合計	90,817	91,779
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	795	574
為替換算調整勘定	△1,438	△2,312
退職給付に係る調整累計額	△152	△145
その他の包括利益累計額合計	△794	△1,884
非支配株主持分	7,717	7,678
純資産合計	97,739	97,573
負債純資産合計	132,680	137,097

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年11月1日 至2018年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)
売上高	19,058	24,269
売上原価	13,950	17,948
売上総利益	5,109	6,321
販売費及び一般管理費	4,236	4,195
営業利益	872	2,127
営業外収益		
受取利息	22	14
受取配当金	139	98
持分法による投資利益	475	409
貸倒引当金戻入額	19	17
その他	125	68
営業外収益合計	779	605
営業外費用		
支払利息	8	5
売上割引	5	4
為替差損	259	235
その他	9	8
営業外費用合計	281	252
経常利益	1,371	2,480
特別利益		
固定資産処分益	0	91
受取保険金	—	9
抱合せ株式消滅差益	45	—
特別利益合計	45	100
特別損失		
固定資産処分損	7	5
ゴルフ会員権売却損	0	—
ゴルフ会員権評価損	—	0
災害による損失	—	10
事務所移転費用	—	10
特別損失合計	7	25
税金等調整前四半期純利益	1,409	2,555
法人税等	299	701
四半期純利益	1,110	1,854
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△15	15
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,125	1,839

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)
四半期純利益	1,110	1,854
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△672	△225
為替換算調整勘定	△47	△84
退職給付に係る調整額	11	7
持分法適用会社に対する持分相当額	11	△790
その他の包括利益合計	△698	△1,091
四半期包括利益	412	763
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	425	750
非支配株主に係る四半期包括利益	△13	13

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用)

税金費用について、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	農業及び 農業関連 (百万円)	化成品 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	13,268	4,119	17,387	1,671	19,058	—	19,058
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	702	702	△702	—
計	13,268	4,119	17,387	2,373	19,760	△702	19,058
セグメント利益	836	319	1,155	2	1,158	△286	872

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、賃貸事業、発電及び売電事業、建設業、印刷事業、物流事業、情報サービス事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△286百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	農業及び 農業関連 (百万円)	化成品 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	17,450	5,136	22,586	1,683	24,269	—	24,269
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	691	691	△691	—
計	17,450	5,136	22,586	2,374	24,960	△691	24,269
セグメント利益	1,900	411	2,311	119	2,430	△303	2,127

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、賃貸事業、発電及び売電事業、建設業、印刷事業、物流事業、情報サービス事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△303百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。